事例No.	2772
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	特定非営利活動法人SET

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

特定非営利活動法人SETの地域で支え合うコミュニティビジネス事業による持続可能なふるさとづくり

出典

令和４年度ふるさとづくり大賞事例集



特定非営利活動法人SETの地域で支え合うコミュニティビジネス事業による持続可能なふるさとづくり

特定非営利活動法人SET（せっと）

DATA

事　例　名：NPO法人SETの地域で支え合うコミュニティビジネス事業
所　在　地：岩手県陸前高田市広田町字山田52番地6
連　絡　先：TEL 0192-47-5747
　　FAX 0192-47-5747
　　E-mail set.forjapan@nposet.com
ホームページ：https://set-hirota.com/

取組の概要

陸前高田市広田町は、東日本大震災の影響を受け、かつての賑わいを失った。また、新型コロナウイルスの影響により地域コミュニティの希薄化が加速した。本取り組みは、地域外から移住した若者が主体となり、農園づくりやカフェの運営による交流の場を創出し、また、地域食材配達サービスや弁当の提供という食を通じたコミュニティの再構築に取り組むことで移住者の雇用創出や地域住民の町への愛着醸成につなげ、持続可能なふるさとづくりを目指すもの。

評価された点

- 人離れが進む場所では、外からの移住を促すとともに、地域コミニティによって地元の絆や結束を強めることも大切である。陸前高田の持つ資源を活用し、地域住民で協働性のある取り組みをしている点を評価。
- 震災復興のシンボル的なふるさとづくりの好事例である。また、移住者が発起人というところも評価。
- 食の安全安心を基本としながら環境配慮･循環型農業を行っている。さらに、地域内循環（カフェ、配達、ランチ等およびマイノリティの人々）にも配慮が行き届いた、「身の丈」にあったコミュニティづくりに成功。被災地の「真似のできる」先進事例として評価。

取組のプロセス

取組を実施するに至った要因･背景や地域課題
その取組を実施するに至った要因･背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

2018年～

･「ここは出会いの場で、楽しい」という声をいただく。

カフェ彩葉開業

･移住者が発起人となり、クラウドファンディングを行い、古民家を改修して開業。



きっかけ 2020年～

新型コロナウイルス流行
NPO法人SETで実施していた全交流事業中止。地域の中で、今できることは何かを見直した3ヶ月。
また、多くの人が働き方だけでなく､「暮らし方」に本質的に目を向ける機会となる。

2020年～

･「季節の食材が届いて嬉しい」「こうして買ってくれるから漁にも出よう、という気持ちになる」という声をいただく。

ぴいろたお届け便開始

･店や市場がなく広田町の野菜や魚を町内で買うことが難しいという課題感があり、地域の生産者からまとめて購入し各家に配達するサービスを実験的に開始。



2021年～

･「野菜が美味しいと気づけた」という声をいただく。

めぐる提供開始

･「もっと食を楽しんで健康になってほしい」という想いから有機/無農薬食材を積極的に使った菜食中心のランチプレートを開始。



2021年～

パーマカルチャー農園始動

･農業に関わる担い手を増やし、その土地ならではの特徴を活かした農業を行うため、パーマカルチャー農園が始動。



2022年～

初マルシェ開催

･コミュニティ活動の再開に向け、試験的に実施。



今後の展望

公民館マルシェ
地域に根ざした取り組みとしていくために公民館やコミュニティセンターを利用して、参画のハードルを下げ、地域コミュニティの活性化に貢献していきたい。

受賞者のコメント

この度の受賞、大変嬉しく思います。東日本大震災や新型コロナウイルスの影響により地域コミュニティには大きな影響が出ています。その中で地域外出身の若者と地域に住んでいる方々がともに活動をすることにより、これまでになかった新しい可能性が開けています。今後も地域のコミュニティをつなぎ、地域での暮らしをより楽しく思う人が増えることを大切に活動してまいります。よろしくお願いいたします。